

メジャーアーティストがインターネットで音楽を配信し始めた。訴求力のあるアーティストが出現することで、ノンパッケージミュージックが多くの人にとって現実のものとなるはずだ。が、もしかしたら、インターネットから生まれるミュージックシーンというものがあるのかもしれない。

疾走する ノンパッケージ ミュージック

福富忠和 + 前田邦宏 + 川崎和哉

Photo: Nakamura Tohru (P284)

インターネットマガジン / 株式会社インプレスR&D

© 1994-2007 Impress R&D

著作権審議会の「中間まとめ」に JASRACが反発 デジタル時代の著作権と 問われる著作権の集中管理

インターネットという放送と通信の要素を持ち合わせた新しいメディアの出現によって、著作権法改正の動きが出てきている。この7月に文化庁の著作権審議会が著作権の集中管理のあり方について中間まとめを公表したが、業界内ではさまざま意見が交錯している。次の著作権法改正は波紋を呼びそうだ。

文 福富忠和


著作権集中管理団体の新規参入？

インターネットの普及に並行し、著作権の扱いが課題となってきた。パッケージメディアや放送など産業別の規定で守られてきた著作権を、デジタル化に対応して一括して扱えるよう、著作権法の見直しが必要という声が上がっているのだ。

日本では1970年に著作権法改正が行われ、著作隣接権の創設と放送事業者に対する保護規定が設けられて以降、大きな改正はなかった。しかし、一昨年WIPO（世界的所有権機構）で、インターネットなどに対応した条約が締結されたのを受け、97年に「利用（送信）可能化権」（オンライン配信時の隣接権保護）が設けられたほか、「技術的保護手段の回避に関する規制」（コピープロテクト外しを違法とする）、「電子的権利管理情報の改変などに対する規制」（電子透かしなどの改変を違法とする）などの保護項目が設けられた。

7月には、審議を続けてきた文化庁の著作権審議会の権利の集中管理小委員会専門部会が「中間まとめ」を発表。「デジタル化・ネットワーク化の進展に伴い、著作物の利用可能性が拡大しており、著作物の円滑な利用について簡易迅速な許諾手続きにより権利処理ができるシステムの構築が社会から強く求められている」という前提による「中間まとめ」は、新しい法制度のための基本方針を示している。ポイントは、

これまで、音楽、小説、脚本、実演、レコードの分野で行われてきた著作権の集中管理を、映像を含むあらゆる著作物に適用することにある。と同時に、仲介業務法によって、日本音楽著作権協会、日本文芸著作権保護同盟、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会などに認められている集中管理団体の特権や、日本芸能実演家協議会や日本レコード協会に与えられている二次使用料徴収の特権を廃止し、集中管理団体への新規参入を認めるところにある。

著作権審議会権利の集中管理小委員会専門部会
中間まとめ

www.monbu.go.jp/singi/chosaku/00000261/

批判と賛成がうずまく


業界慣例による複雑な権利処理と、経営などの不透明さも指摘される既存の集中管理方式の両方を調整したこの基本方針は、一般や関係者から「意見の募集」を行っているが、思いのほか評判がよくない。

たとえば現在、音楽著作権の集中管理団体として活動している（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）は、「中間まとめ」の要旨を受けて意見を公開した。「規制緩和と競争原理の導入は、開かれた社会を目指す時代の要請である」としながらも、「個人としては極めて弱い立場にある権利者が、単一の集中管理団体に結束することで、かろうじて利用者に対等の立場に立つことが

できる」「権利が1か所に集中していることから、効率的な管理が可能となり、その分コストがかからない」などの理由で、集中管理団体への新規参入に反対している。しかし、逆に、MP3配信などにより機会が生まれつつあるこれまでJASRACの範囲外にあったインディーズの一部アーティストからは、同じ理由で「中間まとめ」を支持する声もある。こうした層からも集中管理団体への参入の動きが出てきているという。

またCD-ROMなどデジタルメディアの制作者団体である（社）デジタルメディア協会（AMD）は、仲介業務法による集中管理方式は、昭和14年、プラーク博士が日本で著作権料収集を強行したことに対応するためのものであり、もともと廃止すべきものであること、集中管理団体をさらに情報面で取りまとめる権利処理代行センター構想は実現不可能、などの強い批判意見を表明している。

こうした意見がどのように制度に生かされるか、見守る必要があるだろう。

（社）日本音楽著作権協会
「著作権審議会権利の集中管理小委員会専門部会
中間まとめに対する意見書」

www.monbu.go.jp/singi/chosaku/00000261/

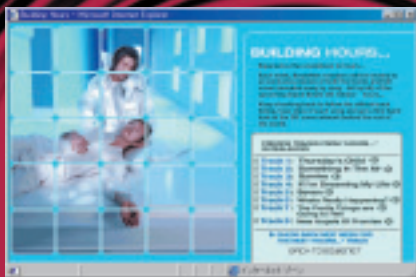
メジャーレーベルの 対ネットワーク戦略が始まる 川上から見た ノンパッケージミュージックの風景

ソニー・ミュージックエンタテインメントは年内中に有料の音楽配信を始めると公表している。彼らにとってインターネットの音楽配信とはどのように映っているのだろうか。メジャーと呼ばれる大手レコード会社のネット戦略担当者取材し、既存の音楽産業から見たノンパッケージミュージックの将来像を問う。

文 前田邦宏



インターネットサービスプロバイダー『BowieNet』を昨年より開始するなど、インターネットに精力的にかかわっているデビッド・ボウイ。



 www.davidbowie.com

アルバムダウンロード販売は北米向けに9月21日から10月4日まで行われた（CDパッケージは米国で10月5日から発売）。

hours... / デビッド・ボウイ
東芝EMI 2,548円
VJCP-68160

1997年の『アースリング』以来の新作となるこのアルバムは、日本では9月29日に発売された。インターネット上で販売されたビッグアーティストの初のフルアルバムということでは大きな意味を持つ作品だ。



メジャーレーベルの参戦

ヴァージン・レコーズ・アメリカは、9月21日よりデビッド・ボウイのニューアルバム『hours...』をリキッドオーディオおよびウィンドウズメディアのフォーマットで北米向けに配信した。世界的な有名アーティストが新譜発売前にフルアルバムを有料配信したのはこれが初めてのケースとなる。今回は、小売店発売日までの期間を限定した実施だったが、ヴァージン・レコーズ・アメリカでは今後もこのような試験的販売をマーケティングの一環として行う予定だ。また、日本のソニー・ミュージックエンタテインメント（SME）からは、人気バンド、ラルク・アン・シエルの新曲『Love Files』の一部をATRAC3フォーマットでウェブ上に先行公開し、12月から開始する有料配信を視野に入れた戦略を着々と進めている。

これら大手レコード会社がノンパッケージ音



 www.larcom.net

10月8日から10月25日まで配信が行われていたラルク・アン・シエルの新曲『Love Files』。ソニーの音声コーデック「ATRAC3」による配信は世界初。年末までに予定されているSMEの音楽配信の先駆けとして話題となった（画面は専用再生ソフト）。

楽を本格的に配信し始めたことによって、インターネットにおける音楽ビジネスの新たな展開に拍車がかかることは間違いのない状況だ。しかしながら、レコード会社はこれまでのCD販売を軸にしたビジネスモデルを崩す姿勢はなく、CDをノンパッケージ音楽に置きかえるつもりはないようだ。

音楽産業はもともと転換期

国内レコード産業の市場規模は約7,000億円。その大半の売り上げを占めるメジャーレーベルの台所事情は決して潤っているわけではない。CDは年々売り上げ枚数が減っており、99年の上半期はCDの生産量が昨年より9パーセントも減っている。これは音楽の内容や質の問題だけではなく、カラオケブームの衰退やゲーム機の普及、携帯電話によるコミュニケーションの発達で若年層のライフスタイルや消費の傾向が変化し、音楽の娯楽に占める役割が一時代前と変わってしまったのが根本的な理由だと考えられる。つまり、レコード業界はインターネットという黒船が来る前にすでに転換期だったのだ。

BMGファンハウスの堂山氏は言う。「音楽産業はレコード会社だけで成り立っているわけではない。小売店や流通などの川下産業と川上である我々がそれぞれどう売り上げていくか、それはとても重要なことだ。レコード会社はノンパッケージが新規の市場を形成するとは思っておらず、インターネットを利用して既存のパッケージの売り上げ

を伸ばすことを考えたほうが制作者にとっても販売者にとっても好ましいと考えている。

「ノンパッケージ化を推進する理由にアーティストの権利擁護を訴える人もいるが、ノンパッケージ化が本当に権利者のメリットになるかは疑問。CDの印税はパッケージの価格に応じて支払われるので、楽曲の単価が下がれば、レコード会社だけでなく、アーティストの売り上げも下がることになる」（堂山氏）。確かにコスト面だけを考えれば、プレス代やジャケット制作費を差し引いたノンパッケージ音楽の値段がレンタルCDほど価格を下げられるかという難しい。それどころか、楽曲をばらばらに買うことができると、宇多田ヒカルでさえ全体の楽曲出荷数は下がるに違いない。しかしながら、レコード会社はネットを利用して今後のCDの売り上げを伸ばすことは可能なのだろうか？

BMG ファンハウス
KJump jpbgmtol.bmgjapan.com

インターネットはマーケティングツール

「ネットワークによる音楽配信は、近い将来、音楽マーケティングのツールとして大きな役割を果たすに違いない。たとえば、音楽の配信サービスを行う際に各ユーザーの了承を得て、詳細なリサーチを行うことも可能だろう。これは、先頃NTTドコモが発表したメモリスティック内蔵のPHSによる音楽配信実験に対する堂山氏のコメントだ。つまり、ユーザーの個人情報を踏まえれば、マスマーケティングだけでなく、ワンツーワンのマーケティングも可能になるからだ。このあたりは、音楽マーケティングに関する専門ウェブサイト「@マケ」を立ち上げたソニーミュージックも同じで、その点を重視していることがうかがえる。

また、音楽配信システムを供給する米国のリキッドオーディオ社も、冒頭のデビッド・ボウイの楽曲に地域制限（ユーザーの

アクセス経路やIPなどの要素からダウンロードの制限）を行うなど、レコード会社がCDのプロモーションやマーケティングに利用できるような機能を充実させている。これらの機能はレコード会社からの要請を受けて実現した技術だ。

「私たちはノンパッケージと呼ぶ、ノンフィジカルな音楽という言葉を使う。CDパッケージをショッピングする楽しみとダウンロードミュージックの楽しみ方はまったく違う」。リキッドオーディオジャパンの小長井氏は言う。「私たちはPCが音楽を聴く環境だと思っていない。リスナーはこれまでと音楽を聴くスタイルを変える必要はなく、私たちは音楽購入の新しい形態を提案しているにすぎない。

確かにノンパッケージ音楽は、しばらくパッケージ音楽と共存するだろう。しかし、問題はレコード会社がその主導権を握れるかどうかだ。「レコード会社が音楽産業の主導

的役割を果たしてきたのは、強力なプロモーション能力のおかげ」とワーナーミュージックの新技术検討委員の庄田氏は言う。「しかし、私たちの利益構造では、インターネットのインフラやシステムに電機メーカーや通信キャリアが行う膨大な資金の投資は不可能」（庄田氏）。前出の堂山氏も同じように「たとえば、HMVが立ち上げた大掛かりな通販サイトを今のレコード会社が率先して行うことは資金的にも人材的にも難しい。新しい価値観で新しい組織を創らない」とレコード会社自身のあり方まで言及している。2000年は音楽業界におけるインターネット元年。メジャーがメジャーであるための闘いも始まった。

リキッドオーディオジャパン
KJump www.liquidaudio.co.jp



KJump www.sme.co.jp/MoreInfo/atMarke/

レコード会社のマーケティング情報を音楽提供者であるSME自らの手で提供しているサイト。インターネットの音楽配信ビジネスはもちろんのこと、「女子高生200人『好きなアーティストベスト10』」や「@マケトレンドセレクト10」などレコード会社が持つマーケティング情報を惜しげもなく、かつ、エンターテインメント性に富んだ形で提供している。

Online Music Review

インターネットではすでに何千もの曲が聴けるのだ。音楽好きならこれを聴かない手はない。そこで、オンラインならでは曲からパッケージ化される前の新曲まで、いま手に入れられる音楽を紹介しよう。

オンラインミュージックレビュー開始！

文 川崎和哉

デビッド・ボウイのアルバム配信、ラルクのシングル配信、メモリスティックウォークマン、NTTドコモの音楽配信参入……。遠からず僕は、あらゆるメジャーなレコード会社の新譜シングルを、気軽にネットから買って楽しめるようになるだろう。

それはもう大歓迎だ。しかし、もし単にそれを享受してメダタシメダタシでおしまいになるのなら、あんまり面白くないんじゃないかと、インターネットのヘビーユーザー兼い音楽ファンとして僕は思う。インターネット独特のシーンが醸成されて初めて、オンラインで音楽を聴く意味が出てくるんじゃないか？

そのために、1つにはインターネットならではの作品が生まれて欲しいということがある。むやみにインディーズを礼賛したいわけでは決してないが、既存のレコード会社以外から品質の高い作品や、大ヒット作、スターが現れて欲しい。インターネットが高品質のオンラインソフトを数多く生み出したように、従来の商品流通とは無関係の商品が登場し、競争力を持ってほしいはずだ。

もう1つは、音楽を紹介、批評し流行を生み出す役割にも変革が起こるべきだということ。日本では雑誌、アメリカではラジオが大きな力を持って音楽の評価と流行の市場を形作ってきた。60年代以来、マスメディアは音楽産業と分かちがたく結びついてきた。しかし、インターネットがそれに追いつくには十分な理由はない。

以上のような意味から、これからのオンラインミュージックでは、リスナーの選曲行動をいかにナビゲートするかということがすごく重要になると僕は思っている。

まずは、リスナーに対して、できるだけ総合的でフェアな「選曲の機会」を提供することが求められる。現在、インターネット上の音楽作品は、配信サイトごと、レコード会社ごとに分断されてしまっている。大きめのショップに行けばあらゆるレーベルのCDを買えるように、ネットにもそれに相当する場所が必要だろう。メジャーにもマイナーにも出会うことができるニュートラルな場所。すなわち、音楽作品への総合的横断的リンク集 = ディレクトリーである。



oops.jpweb.net

誰もが自由に音楽をレビューできる新しい形の音楽コミュニティーサイト。最新情報からレビューまですべてインターネットユーザーが参加することで作られている。ここに掲載したレビューも載せる予定。ピンときた音楽好きは、いますぐアクセス！

Sex Lows / Beck

www.beck.com/sexlaws/

フォーマット：リアルオーディオ/ウィンドウズメディアオーディオ(ストリーミング)

価格：無料

関連アーティスト：



十八番の「具」が載った面目躍如の新譜

こりゃあ強力なシングルですね。ホーンのキャッチーなフレーズが印象的な古めかしいR&Bスタイルの楽曲に、なにやらアメリカンゴシック風のヘンテコさやカントリーやスペース風味というベック十八番の「具」が載っている、という塩梅。まさに面目躍如。カッコいい！です。それなのに、ストリーミングのみっていうのはちょっとカッコ悪いかもです。有料でもいいから、もっといい音のを置いといて欲しかった。

(川崎和哉)

Jazz in the Park / Vegas Lounge

www.mp3.com/artists/16/vegas_lounge.html

フォーマット：MP3

価格：無料

関連アーティスト：



ジャズ・ファンクの「新保守」

MP3.comのAcid Jazzのトップ10にランクされてる、シカゴのジャズファンクバンド。誰が聴いても、これはヘッドハンターズであり、電化期マイルスであり、60年代末～70年代初頭のジャズファンク。メデスキ、マーティン&ウッドみたいな先鋭的どころはなく、あくまで当時の焼き直しなのだけど、変に斜に構えないその無邪気さは、意外と悪い気分にはさせない。どっかで聴いたようなめくるめくデジャブ攻撃。

(川崎和哉)

このディレクトリーには、簡潔なレビューが添えられることになる。店員による推薦文や音楽誌のCD評に相当するものだ。これまでこうした文章は売る側の人間が、職業的な書き手によって行われてきた。しかし、インターネットの流儀に従えば、それは普通のリスナー本人によって行われることのほうが自然である。それが中立性を保証すると同時に、インターネットコミュニティの嗜好を素直に反映し、独特の流行や評価を持ったシーンを形成していく助けになる。

実際、こうした条件を備えた、オンラインミュージックのディレクトリー/レビューサイトが現れてきている。たとえば、『Tunes.com』などは代表的だ。リスナーは分類されたディレクトリーによって、さまざまなサイトから配信される音源にアクセスできる。自らがレビューを書き、公開することができる。

同様に日本では、僕も含めたオンラインミュージックの愛好者集団が、『OOPS!』というサイトを構築中だ。ユーザーズグループのように、リスナー自身が記事作成からサイトの運営にまで参加している。

インターネットのアーナキックな混沌が、既存の音楽産業を創造的に破壊してくれるなら、少しわくわくするじゃないですか？

Tunes.com
www.tunes.com

Carpet Crawlers 1999 / Genesis

www.amazon.com/exec/obidos/subst/music/download/genis/ge-main.html

フォーマット：リキッドオーディオ/AAC/96kbps
価格：無料（試聴期限：1999/11/20）
関連アーティスト：Mike Rutherford, Tony Banks, Steve Hackett



フィルコリとピーガブ、夢のデュエット
発売されたばかりのベスト・アルバムに収録されている超話題曲が無料ダウンロードできます！ 単なる「GENESIS再結成」ではもう驚がないという貴兄でも、さすがにフィル・コリンズとピーター・ゲイブリエルと一緒に演ることになるなんて一体誰が想像できたでしょうか！！ しかも因縁の対決どころか、味のある両者のボーカルが実に絶妙なブレンド具合の仕上がりで、胸の中に優しいものがジーンと染みしてくるような曲です。（鷺見和男）

The War / 元プリンス(ライブ録音)

www.love4oneanother.com/liberty/groove/audio/thewar.html

フォーマット：リアルオーディオ
価格：無料
関連アーティスト：Sly & the Family Stone



悶絶！ ドープな26分

早くからインターネットを使った音楽活動を行っている元プリンス。彼のオフィシャルサイトにもいくつかの未発表音源が公開されているんだけど、その中でも最もフリーキーなのがこの曲。ギターも泣けばシンセもうねる！ といった感じで、26分にもおよぶジャムの至るところでプリンス節が炸裂しており、まさにファン号泣の激烈エクスペリメンタルな内容。後半のクライマックスで何度も昇天して下さい。

(一瀬大志)

Vivrant Thing / Q-Tip

www.mp3.com/artists/z2/qtip.html

フォーマット：MP3
価格：無料
関連アーティスト：A Tribe Called Quest



B-Boy必聴！ Q-Tipの新譜アリ

「気合い入れて仕事するぞ！」というときに延々ループさせていたこの曲。発売と同時にCD買ったのに、まさかMP3.comで無料配布されていたとは……。「ヒップホップ特集：Q-TipおよびMos Def関連」みたいなMP3のプレイリストを個人的に編集してたりするんだけど、これはまさにそのオープニングを飾るにふさわしい一曲。それが無料で聞けるなんて……。ネットって想像以上に素晴らしいのね……（嬉泣）

(一瀬大志)

Lunations / Michael Brecker

www.amazon.com/exec/obidos/subst/music/download/michael-brecker/mb-main.html

フォーマット：リキッドオーディオ/AAC/96kbps
価格：無料（試聴期限：1999/12/30）
関連アーティスト：Pat Metheny, Larry Golding



こ、これがボツ・テイク！

1999年11月2日に米国で発売されたニューアルバム「Time Is Of The Essence」から、ではなくて、アルバムに収録されなかった曲、いわゆるボツテイクとして無料放出中なんです……。パット・メセニーの正確無比なギターとラリー・ゴールドイングスの激流オルガンをフィーチャーした見事な演奏なんです、これが！！ この原稿を書いている時点ではアルバムの内容が不明なのですが、これがボツとなると傑作に違いないのでは？（鷺見和男）



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp